

平成 29 幼児期の運動プログラム普及事業
「親子で仲良く！アドベンチャーキッズ」 事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 沢登り体験や運動プログラムを通して、幼児の体力の向上を図り、豊かな感性を育てる。また、親子での沢登り体験を通して、保護者に体験活動の大切さを知らせるとともに、親子のコミュニケーションを深める機会とする。
- (2) 期 日 平成 29 年 9 月 2 日(土)～3 日(日) 1泊 2 日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、マゼノ溪谷
- (4) 参加者 幼児とその保護者 24 名 (定員 30 名 応募者 24 名)
(保護者 11 名、小学生 5 名、幼児 8 名)
- (5) 講 師 研修指導員 薄井 良文 氏
Pilates Studio ラパン 原部 静子 氏
- (6) 担当職員 山下 正晃(企画指導専門職) 三枝 ひとみ(企画指導専門職)
寺島 しほ(事務補佐員) 佐藤 ゆり子(事務補佐員)
熊本大学インターン実習生 2 名 法人ボランティア 2 名
- (8) 内 容
【1 日目】 ・沢遊び、沢登り(マゼノ溪谷)
・ピラティス(保護者) ・運動遊び(子供)
【2 日目】 ・運動遊び(大玉相撲)

2 成果と課題

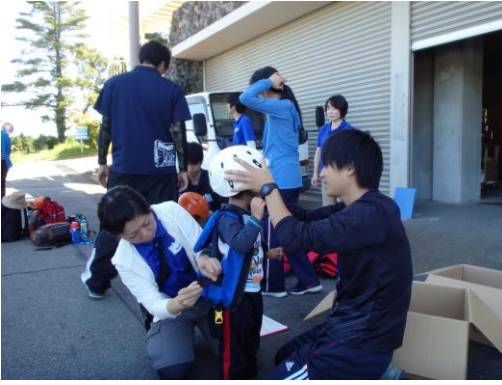
(1) 成 果

- 「子供は寒くて震えていましたが、最後までやり遂げてよい経験になりました。」「沢遊びは家族だけではけがや事故の心配が多かったが、インストラクターの方にコツを教えていただき、楽しく、涼しい気持ちで遊ぶことができました。」等の感想から、沢登り・沢遊び体験が幼児に達成感を与えることや、幼児期の体験活動の大切さなどを保護者に感じてもらうことができた。
- 「家族やいろいろな方とコミュニケーションをとる機会がありよかったです。」「普段、家族でここまで体を動かしながら遊ばないので、家族と一緒にする運動遊びはとても楽しかったです。」等の感想もあり、活動を通して、家族内や参加された家族同士でのコミュニケーションを深める機会になったことが伺えた。
- 余裕をもった時間設定や、親子分かれて行うプログラムにより、子供だけでなく保護者も活動を楽しむ様子が見られた。
- 子供たちの夜の活動の補助をボランティアに任せたことで、ボランティアの子供への接し方などのスキルアップを図る機会となった。

(2) 課 題

- 沢遊び・沢登りの活動の際は、担当職員全員での事前踏査を入念に行い、現地の様子を把握するとともに、地形の変化等にも臨機応変に対応するための打ち合わせを十分行う必要がある。
- 当日は例年よりも気温が低かったこともあり、気温変化に対応するバスタオルやブランケットなどの準備が必要だった。
- 幼児が参加する事業であることから、スケジュールの全体確認の時間を設けることや、拡大したスケジュール表などを掲示することで、参加者が見通しをもって活動ができるように配慮する必要がある。
- 事業参加者の年齢の幅や、体力や体験の個人差に対応するために、活動にいくつかのコースを設けるなどの工夫を行う必要がある。

3 事業の様子



装備準備



沢遊び・沢登り開始



水に浮かぶ体験



沢登り体験



沢登り・沢遊びの振り返り



ピラティスの様子



運動遊びの様子



大玉相撲の様子